

オーガニック給食提案

元農水相の山田氏講演

地下水守るセミナー

「未来の子どもたちのために地下水を守るセミナー」（主催・宮古の地下水を守る会）が13日、JTAドーム宮古島で行われた。元農林水産大臣で弁護士の山田正彦氏が「水と食の安全と今私たちにできること」と題して講演した。

市民ら約250人が高機能活性炭浄水処理施設整備の必要性や有機農業で栽培した食材によるオーガニック食の可能性について認識を深めた。

山田氏は市の発達障がい児数がこの10年間で44倍（全国平均の20倍）に急増

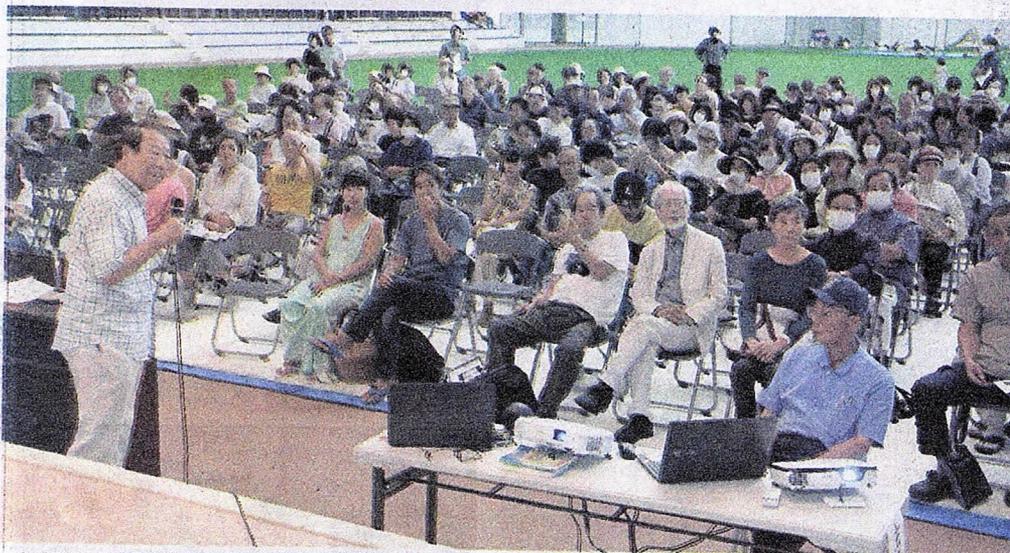
していると指摘。▽農業でネオニコチノイド系農薬が散布される市の調査でEU基準を上回る残留農薬が検出された▽農薬の散布と発達障がいとの因果関係については数多くの論文があることなどを示し、「高機能活性炭浄水処理施設の整備が急がれる」とした。

その上で、米国の家庭の例として、急に暴れ出すという子どもの症状が、約3週間のオーガニック食で改善した事例、熊本などのグループが4週間のオーガニック食後に血液検査を行い、約80%のデトックス効果があった事例などを示し、「まずは3カ月一度、土日だけオーガニックの米を学校給食に出してはどうか。全国186の市町村がオーガニック給食に取り組んでおり、宮古島もできる。国の補助を使って有機栽培の食材を3割程度高く買えば農家の生きる道となり、全国一厳しい環境にさらされている

子供たちの健康を守ることにつながる」との認識を示した。

また、2025日本ストックホルム青少年水大賞を受賞した宮古総合実業高

校環境班の「宮古島の命の源である地下水を化学農薬汚染から守る研究」について同班顧問の前里和洋教諭が発表した。



山田氏（手前左）がオーガニック食の可能性などを説明したセミナー＝13日、JTAドーム宮古島